

# NetBackup IT Analytics ライ センスガイド

リリース 11.0

**VERITAS™**

# NetBackup IT Analytics ライセンスガイド

最終更新日: 2022-07-14

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2022 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴは、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書をご参照いただくか、次の場所で入手してください。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、この文書の供給、履行、または使用に関連して付随的または間接的に起こる損害に対して責任を負いません。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、ベリタスがオンプレミスサービスまたはホストサービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
2625 Augustine Drive.  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、ベリタスの Web サイトで入手できます。

## Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

ベリタスの SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

## 第 1 章

<b>ライセンスのインストールとガイドライン</b> .....	6
ライセンスの概要 .....	7
ライセンスエディション .....	7
ライセンスの機能一覧 .....	10
ライセンス制限について .....	12
ライセンスキーファイルの取得 .....	13
ライセンスのインストール .....	15
現在のライセンス構成の確認 .....	16
ライセンスの概略レポートの実行 .....	17
ヘルプのバージョン情報 .....	17
ライセンスの詳細の表示 .....	18
ライセンススイートの消費基準 .....	18
Storage Suite .....	18
Capacity Manager .....	19
Fabric Manager .....	20
Protection Suite .....	20
Backup Manager .....	20
Virtualization Manager .....	23
Complete Suite .....	24
File Analytics .....	24
Foundation .....	24
ライセンスの管理 .....	24
集中型システムから収集されたオブジェクトの管理 .....	24
直接精査されたエンタープライズオブジェクトの管理 .....	25
履歴データの処理方法 .....	25
ライセンス数を管理するプロセス .....	26
カウント対象と除外対象のオブジェクトの特定 .....	26
複数のライセンスのスタック .....	27
高度な資格のライセンスの追加 .....	27
ライセンスエディションの変更 .....	28
ライセンススイートを積み上げた場合のポータルの動作 .....	28
現在のライセンスの表示 .....	29
クライアントの削除 .....	29
ライセンス構成の拡張 .....	30
将来のデータ収集からのオブジェクトの除外 .....	30
オブジェクトを除外するためのデータコレクタポリシーの構成 .....	30

	アレイを除外するためのデータコレクタポリシーの構成例 .....	30
	オブジェクト除外データベーステーブルへのオブジェクトの追加 .....	32
	ライセンス数からのオブジェクトの削除 .....	33
	イベントリスト表示を使用したオブジェクトの削除 .....	35
<b>第 2 章</b>	<b>コマンドラインからのライセンス管理 .....</b>	<b>36</b>
	概要 .....	36
	Microsoft Windows ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール .....	37
	Linux ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール .....	38
	現在のライセンス構成の確認 .....	38
	レポート設定ユーティリティの実行 .....	39
	ライセンス検証ユーティリティの実行 .....	39
	ポータルライセンスの削除 .....	40
<b>第 3 章</b>	<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>42</b>
	ライセンスのインストールが「ライセンスは別のホストに対してすでに発行済みです (License is already issued for another host)」エラーで失敗する .....	42

# ライセンスのインストールとガイドライン

この章では以下の項目について説明しています。

- [ライセンスの概要](#)
- [ライセンス制限について](#)
- [ライセンスキーファイルの取得](#)
- [ライセンスのインストール](#)
- [現在のライセンス構成の確認](#)
- [ライセンススイートの消費基準](#)
- [Storage Suite](#)
- [Protection Suite](#)
- [Complete Suite](#)
- [Foundation](#)
- [ライセンスの管理](#)
- [現在のライセンスの表示](#)
- [クライアントの削除](#)
- [ライセンス構成の拡張](#)
- [将来のデータ収集からのオブジェクトの除外](#)
- [オブジェクトを除外するためのデータコレクタポリシーの構成](#)

- [ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)
- [インベントリリスト表示を使用したオブジェクトの削除](#)

## ライセンスの概要

NetBackup IT Analytics アプリケーションを実行するには、有効なライセンスが必要です。

ライセンスファイルを受け取っていない場合は、「[ライセンスキーファイルの取得](#)」を参照してください。

利用可能な NetBackup IT Analytics ライセンススイートと、各スイートに含まれる内容を次に示します。

表 1-1 NetBackup IT Analytics ライセンススイート

ライセンススイート	含まれる内容
Storage Suite	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Capacity Manager</li><li>■ Fabric Manager</li><li>■ Virtualization Manager</li></ul>
Protection Suite	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Backup Manager</li><li>■ Virtualization Manager</li></ul>
Complete Suite メモ: Complete Suite には、Storage Suite と Protection Suite の両方に含まれるライセンスに加えて、File Analytics のライセンスが含まれています。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Capacity Manager</li><li>■ Fabric Manager</li><li>■ Virtualization Manager</li><li>■ Backup Manager</li><li>■ File Analytics</li></ul>
Foundation	Backup Manager の次の 3 つのポリシーのみ: <ul style="list-style-type: none"><li>■ Veritas NetBackup</li><li>■ Veritas Backup Exec</li><li>■ Veritas NetBackup Appliance</li></ul>

ライセンス構成を超えていることがわかった場合は、以下を参照してください。

- [「ライセンス制限について」](#)
- [「現在のライセンス構成の確認」](#)

## ライセンスエディション

各ライセンスの種類のエディションの定義を以下に示します。

- 標準: Oracle Standard Edition を使用し、エンタープライズでポータルの一インスタンスのみを使用する場合のみ、NetBackup IT Analytics ポータルのライセンスを許可します。
- 共有サービス: Oracle Shared Services 環境のライセンスを許可します。独自の Oracle ライセンス (BYOO, Bring Your Own Oracle) を指定する必要があります。
- パーティション分割: 基になるデータベースで大規模なテーブルのパーティション分割を許可し、これによりデータベースのパフォーマンスと拡張性を改善します。NetBackup IT Analytics では、Oracle Enterprise Edition Database と Oracle Partitioning オプションを利用します。

各ライセンススイートのライセンスの種類に基づく、サポート対象のライセンスエディションは次のとおりです。

表 1-2 各ライセンススイートのサポート対象のエディション

ライセンススイート	ライセンスの種類	サポート対象のエディション
Storage Suite	永続	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR
	サブスクリプション	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR

ライセンススイート	ライセンスの種類	サポート対象のエディション
Protection Suite	永続	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR
	サブスクリプション	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR
Complete Suite	評価	標準
	永続	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR
	サブスクリプション	標準 標準 DR 共有サービス 共有サービス DR パーティション分割 パーティション分割 DR
Foundation	サブスクリプション	共有サービス












**メモ:** ディザスタリカバリ、可用性、または本番環境からのフェールオーバーを目的として、ソフトウェアスイートから 2 台目以降のポータルサーバーに 2 つ以上の製品のコピーを配備する場合は、ディザスタリカバリ (DR) ライセンスが必要です。ライセンスを取得する個々の製品ごとに DR ライセンスが必要です。

## ライセンスの機能一覧

次の表に、各ライセンススイートで利用可能な機能を示します。

表 1-3 機能一覧

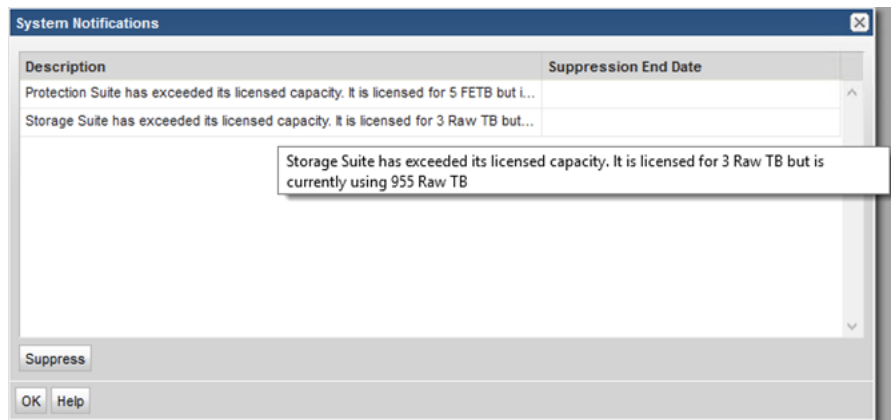
機能	Foundation	Protection Suite	Storage Suite	Complete Suite
収集ポリシー				
ホストの検出と収集	✗	✓	✓	✓
Veritas NetBackup、Veritas NetBackup Appliance、および Veritas Backup Exec	✓	✓	✗	✓
データ保護ポリシー、ストレージターゲット (DD)	✗	✓	✗	✓
ストレージポリシーとレプリケーションポリシー (ストレージターゲットを除く)	✗	✗	✓	✓
ネットワークポリシーとファブリックポリシー	✗	✗	✓	✓
仮想化ポリシー	✗	✓	✓	✓
クラウドポリシー	✗	✓	✓	✓

機能	Foundation	Protection Suite	Storage Suite	Complete Suite
File Analytics				
インベントリ				
バックアップ サーバー				
ホスト				
アレイ				
Azure オブジェ クト				
AWS オブジェ クト (EC2/S3)				
VM オブジェクト とデータストア				
スイッチ				
ファイル共有と ボリューム				
チャージバック				
バックアップ				
容量				
SAN フェブリ ック				
ソリューション				
ストレージ最適 化				
リスク軽減				
アラートカテゴリ				

機能	Foundation	Protection Suite	Storage Suite	Complete Suite
システム管理	✓	✓	✓	✓
データ収集	✓	✓	✓	✓
データ保護 (ServiceNow を 除く)	✓	✓	✗	✓
データ保護 (ServiceNow を 含む)	✗	✓	✗	✓
パフォーマンス	✓	✓	✓	✓
ストレージとスト レージの予測	✗	✗	✓	✓
仮想化と仮想化 の予測	✗	✓	✓	✓

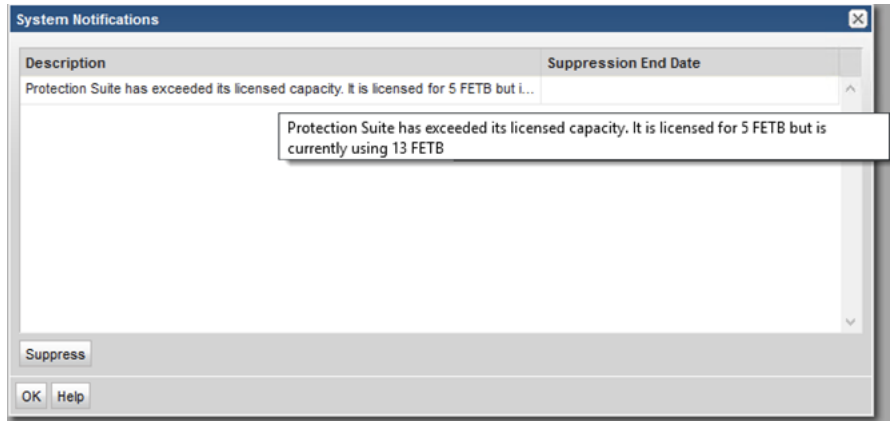
## ライセンス制限について

ログイン時に、ポータルは次の例のようなメッセージウィンドウを表示する場合があります。



前述のメッセージは、ストレージアレイ容量ライセンスに関連しています。これらの種類のライセンスの具体的な定義については、次のセクションを参照してください。

p.18 の「[ライセンススイートの消費基準](#)」を参照してください。



このメッセージは、データベース内のバックアップユニットの総数が、ライセンス付与されている数を超過していることを示します。1 つのバックアップユニットは、クライアント、サーバー、メディアサーバー、マスターサーバー、つまりレポートデータの収集対象のバックアップインフラストラクチャ内のすべての各ホストとして定義されます。

次のセクションで説明するように、クライアントライセンスのコンプライアンスを決定する際には、いくつかの要素が考慮されます。

p.18 の「[ライセンススイートの消費基準](#)」を参照してください。

オブジェクトライセンスの制限に達すると、追加のオブジェクトはレポートデータベースに追加されません。ただし、例外テーブル内に記載されます。除外されたオブジェクトを識別するためのツールについては、次のセクションを参照してください。

p.24 の「[ライセンスの管理](#)」を参照してください。

## ライセンスキーファイルの取得

ポータルアプリケーションを実行するには、有効なライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルをすでにお持ちの場合は、「インストール」セクションに進みます。

ライセンスキーを生成するには:

- 1 ベリタスのサポートポータル ([https://www.veritas.com/content/support/ja\\_JP/](https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/)) を開きます。
- 2 [ライセンス (Licensing)] をクリックし、管理者のクレデンシャルを使用して Veritas Entitlement Management System にログインします。
- 3 [資格 (Entitlements)] タブを開き、上部にあるフィルタを使用して、アカウントに付与された資格をフィルタ処理して特定します。

- 4 ライセンスキーを生成する資格 ID にある鍵アイコンをクリックします。[ライセンスキーの生成 (Generate License Key)] ページが表示されます。ライセンスキーを生成するアカウントの詳細を確認します。
- 5 キーを生成する製品のバージョンを選択します。デフォルトでは、最新の製品バージョンが選択されています。
- 6 キーを使用して配備するライセンスの数量を指定します。デフォルトでは、利用可能な数量全体がフィールドに表示されます。資格が付与されているライセンスの一部をこのキーで使用し、残りのライセンス用に個別のキーを生成できます。

---

**メモ:** 資格が付与されている数量よりも少ないキーを作成し、後でキーに関連付けられた資格を使用してシステムの数を増やす場合、追加のシステム用に新しいキーを作成する必要があります。逆に、キーに関連付けられたシステムの数減らすには、削減されたシステムに新しいキーを割り当てて、古いキーを編集する必要があります。

---

- 7 このキーを使用してをインストールするシステムのホストロック文字列を指定します。正しいホストロック文字列を取得するには、ポータルサーバーで次のいずれかのコマンドを実行します。

- **Linux** の場合: /opt/aptare/utills/VxLicGetHostLock.sh

**Linux** では、VxLicGetHostLock.sh で hostname --fqdn コマンドを使用してシステムのホスト名を取得し、それを使用してホスト文字列を作成します。そのため、hostname --fqdn が短縮名ではなく完全修飾ホスト名を返すことを確認してください。たとえば、コマンド出力には少なくとも 1 つのドット (.) 文字が含まれている必要があります。

- **Windows** の場合: C:\opt\aptare\utills\VxLicGetHostLock.ps1

ポータルをインストールしていない場合は、Veritasダウンロードセンターから VxLicGetHostLock.sh または VxLicGetHostLock.ps1 をダウンロードして、ポータルサーバーの OS に応じて適切なスクリプトを実行できます。

- 8 VxLicGetHostLock.sh または VxLicGetHostLock.ps1 ファイルの実行後に次の出力が表示されます。

```
Veritas Get Host Lock utility v1.0.0.0  
Copyright (c) 2022 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.
```

```
FQDN: xyz.abc.com  
Host Lock String: [sha512]4aba838e350d3c9471aa5334db5de8ad4a0ff  
45e34a6cfaea064f4ca77812acd4c8abc7be6b2d756574b7d6e06ceb9581357  
b824f4f70f84b39d938e85ee62b5
```

VEMS でライセンスキーを生成する際は、[sha512] を含む同じホストロック文字列を使用します。

次に例を示します。

```
[sha512]4aba838e350d3c9471aa5334db5de8ad4a0ff  
45e34a6cfaea064f4ca77812acd4c8abc7be6b2d756574b7d6e06ceb9581357  
b824f4f70f84b39d938e85ee62b5
```

- 9 必要な場合は、今後の参照用にライセンスキーに関するコメントを追加します。
- 10 [生成 (Generate)]をクリックします。[生成されたキー (Generated Key)]ページの[ライセンスキー (License Key)]列に新しいキーが表示されます。キーのリンクをクリックしてローカルに保存できます。

## ライセンスのインストール

このセクションに記載されている手順を使用して、ポータルライセンスをインストールします。ログインレディンシャルに、スーパーユーザーの役割が割り当てられている必要があります。

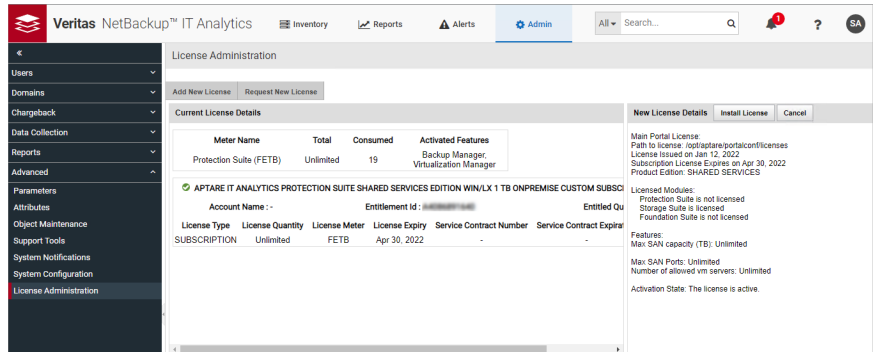
ベストプラクティスとして、ポータルから直接ライセンスをインストールします。コマンドラインによるインストール方法の説明が利用可能です。

p.38 の「[Linux ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール](#)」を参照してください。

ライセンスをインストールするには:

- 1 新しいライセンスファイル取得してポータルサーバーに保存し、次の手順を実行します。
- 2 新しいライセンスのアップロード

- [管理者 (Admin)]、[詳細 (Advanced)]、[ライセンス管理 (License Administration)]の順に移動します。ポータルに現在のライセンスの詳細が表示されます。
- [新しいライセンスの追加 (Add New License)]をクリックします。
- 参照してポータルサーバー上のライセンスファイルを見つけ、[OK]をクリックします。



### 3 ライセンスのインストールを検証します。

p.38 の「[現在のライセンス構成の確認](#)」を参照してください。

ライセンスのインストールに問題がある場合は、ライセンスファイルをもう一度アップロードして、以前のファイルを上書きすることを試してください。

## 現在のライセンス構成の確認

スーパーユーザーとして、現在のライセンス構成を検証する方法はいくつかあります。

- ポータルでライセンスの概略レポートを実行します。  
p.17 の「[ライセンスの概略レポートの実行](#)」を参照してください。
- ポータルの[ヘルプ (Help)]、[バージョン情報 (About)]の順にクリックします。  
p.17 の「[ヘルプのバージョン情報](#)」を参照してください。
- ライセンスの詳細を表示します。  
p.18 の「[ライセンスの詳細の表示](#)」を参照してください。

## ライセンスの概略レポートの実行

- 1 スーパーユーザーとしてポータルにログインします。
- 2 ライセンスの概略を検索します。
- 3 ライセンスの概略レポートを生成します。

Licensed Module	Licensed Unit	Licensed	Used	Used %	Remain	Rejected	Portal Version	Oracle Version	License Expiration
Storage Suite	Raw TB	Unlimited	0.00	0.00%	Unlimited	0	11.0.0.0.20220201053745	Oracle Database 19c Standard Edition 2 Release 19.0.0.0.0 - Production/Version 19.3.0.0.0	N/A
Protection Suite	FETB	Unlimited	0.00	0.00%	Unlimited	0	11.0.0.0.20220201053745	Oracle Database 19c Standard Edition 2 Release 19.0.0.0.0 - Production/Version 19.3.0.0.0	N/A

Note: 1 FETB/Front End Terabyte) \* 2.5 clients conversion factor used to convert number of clients to FETB.  
Copyright (c) 2022 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

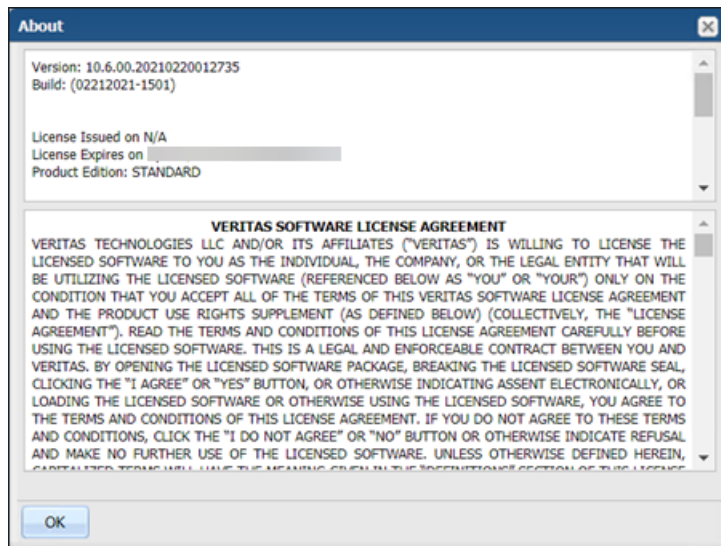
このレポートを使用すると、カウントされたオブジェクトに関する追加の詳細にドリルダウンできます。

## ヘルプのバージョン情報

スーパーユーザーとしてポータルにログインし、ポータルツールバーで以下を選択します。

[ヘルプ (Help)]、[バージョン情報 (About)]

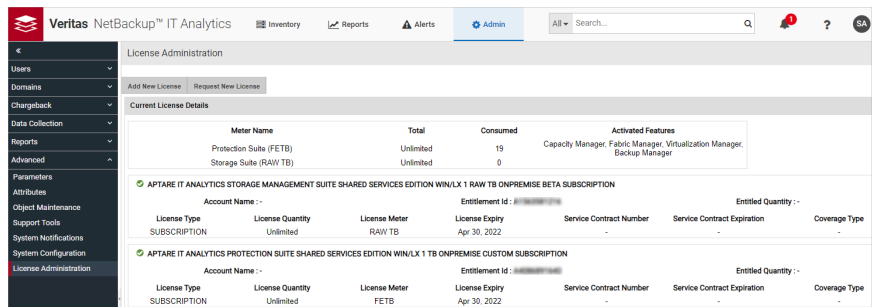
ライセンスの詳細が表示されます。



**メモ:** スーパーユーザー権限のないユーザーは、ライセンス構成の詳細を表示できません。エンドユーザー使用許諾契約のみが表示されます。

## ライセンスの詳細の表示

ライセンスの詳細を表示します。つまり、[管理 (Admin)]、[詳細 (Advanced)]、[ライセンス管理 (License Administration)]の順に移動して、ご使用の環境用に購入したライセンスに関連付けられている特定の機能を表示します。現在のライセンスの詳細が表示されます。



Meter Name	Total	Consumed	Activated Features
Protection Suite (FETB)	Unlimited	19	Capacity Manager, Fabric Manager, Virtualization Manager, Backup Manager
Storage Suite (RAW TB)	Unlimited	0	

Account Name :-	Entitlement id :-	Entitled Quantity :-				
APTAIRE IT ANALYTICS STORAGE MANAGEMENT SUITE SHARED SERVICES EDITION WIN/LX 1 RAW TB ONPREMISE BETA SUBSCRIPTION						
License Type	License Quantity	License Meter	License Expiry	Service Contract Number	Service Contract Expiration	Coverage Type
SUBSCRIPTION	Unlimited	RAW TB	Apr 30, 2022	-	-	-

Account Name :-	Entitlement id :-	Entitled Quantity :-				
APTAIRE IT ANALYTICS PROTECTION SUITE SHARED SERVICES EDITION WIN/LX 1 TB ONPREMISE CUSTOM SUBSCRIPTION						
License Type	License Quantity	License Meter	License Expiry	Service Contract Number	Service Contract Expiration	Coverage Type
SUBSCRIPTION	Unlimited	FETB	Apr 30, 2022	-	-	-

## ライセンススイートの消費基準

各スイートのライセンスの消費について、それぞれのセクションで説明します。コンポーネントの説明で、各クライアントがどのようにカウントされるのかを説明します。

ライセンススイート:

- 「Storage Suite」
- 「Protection Suite」
- 「Complete Suite」
- 「Foundation」

## Storage Suite

Storage Suite は、次のコンポーネントに固有のライセンスで構成されています。

- Capacity Manager
- Fabric Manager
- Virtualization Manager。このコンポーネントは 3 つのライセンススイートすべてで共通であり、そのライセンス消費基準は Protection Suite で説明します。

Storage Suite は、ライセンス消費の測定に RAW テラバイトを使用します。各コンポーネントに固有の製品のライセンス消費基準については、以下のセクションで説明します。

## Capacity Manager

Capacity Manager にライセンスを付与するときに、ライセンスは、環境内の SAN ストレージの raw ストレージ量に基づきます。NetBackup IT Analytics は過去 30 日以内にポーリングされたアレイのみを含めます。

### ストレージアレイ容量ライセンス基準

---

**メモ:** 次の説明は、次のセクションの一覧に示される例外を除き、ほとんどのストレージアレイに適用されます。

p.19 の「[ベンダー固有の容量ライセンス基準](#)」を参照してください。

---

ライセンスは、過去 30 日以内にポーリングされたアレイのストレージアレイの raw 容量に基づきます。この容量は、ストレージアレイ内のすべての物理ディスクの合計容量です。アレイが他のアレイにストレージをプロビジョニングしており、ソースアレイからデータをキャプチャしている場合、容量の重複カウントを避けるために、ソースアレイの容量(受け側のアレイではない)のみがライセンスにカウントされます。

### ベンダー固有の容量ライセンス基準

次のベンダー固有の説明は、特定のベンダーの raw 容量の計算方法を示しています。

#### EMC Symmetrix アレイ

スペアなしのすべてのアレイグループのすべての物理ディスクの容量の合計。注意: EMC Control Center で raw 容量を表示するときに、ディスクグループ 0 (ホットスペア) は、EMC と Capacity Manager がレポートする容量値の差を考慮し、合計容量の計算に含まれません。

#### EMC CLARiiON アレイ

すべてのアレイグループのすべての物理ディスクの容量の合計。スペア (アレイグループに割り当てられていないドライブ) を含みます。

#### HDS アレイ

すべてのアレイグループのすべての PDEV の容量の合計。Capacity Manager は、すべての PDEV がアレイグループの一部であると想定しているため、「アレイグループに含まれていない」とマークされた PDEV は容量計算に含まれません。つまり、スペアとして扱われるディスクはありません。

## NetApp アレイ

ファイラまたはアレイ内のすべての物理ディスクの容量の合計。NetApp vFiler および V シリーズの場合、内部 raw 容量のみを表し、vFiler 容量またはゲートウェイの外部容量は含まれません。

## Fabric Manager

ライセンスが付与されたスイッチポートの台数がカウントされます。たとえば、ライセンス許可では、スイッチが Brocade などのベンダーからライセンス付与されているかどうかを確認されます。

# Protection Suite

このライセンススイートは以下で構成されています。

- Backup Manager
- Virtualization Manager

Protection Suite は、ライセンス消費の測定にフロントエンドテラバイト (FETB) を使用し、次の変換係数を使用してクライアント数を FETB に変換します。

1 FETB = 2.5 クライアント

これらのコンポーネントにおける各製品のライセンス消費基準については、以下のセクションで説明します。

データ保護のポリシーと共に、ストレージのバックアップターゲットのポリシーも構成できます。Protection Suite ライセンスでは、このようなストレージのバックアップターゲットに関連するレポートも使用できます。

## Backup Manager

Backup Manager ユニットライセンスは、サポート対象のサードパーティ製バックアップソフトウェアエージェントまたはサーバーソフトウェアを含む物理ホストまたは仮想ホストごとに必要です。これには、マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントが含まれますが、これらに限定されません。Backup Manager ユニットライセンスは、1 台の物理マシンに対する 1 つのライセンスだけでなく、論理インスタンスごとに必要です。この説明では、クライアントはバックアップユニットと同義です。

## Cohesity DataProtect

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生したデータストア、リソースプール、仮想マシンなどの一意のオブジェクトがカウントされます。

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生した NAS、ディレクトリ、ファイルなどのオブジェクトの一意のクライアントがカウントされます。

## Commvault Simpana

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- クライアントに 1 つ以上の iDataAgent が構成されている。
- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。
- クライアントは、過去 7 日以内にバックアップされた VM ゲストである。これには、廃止されたクライアントも含まれます。

## Dell EMC NetWorker Backup & Recovery

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生したデータストア、リソースプール、仮想マシンなどの一意のオブジェクトがカウントされます。
- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生した NAS、ディレクトリ、ファイルなどのオブジェクトの一意のクライアントがカウントされます。

---

メモ: EMC NetWorker はベンダーのバージョン番号に基づいて記載されています。EMC NetWorker のレガシーバージョン (バージョン 9.2.1.x より前) は、「EMC NetWorker」と呼びます。EMC NetWorker 9.2.1.x より後のバージョンは、「DELL EMC NetWorker Backup & Recovery」と呼びます。これはデータコレクタポリシー名にも反映されます。

---

## EMC Avamar

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- Avamar が過去 7 日間にクライアントデータを提供した。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- Avamar サーバーである。
- クライアントは Avamar MC\_RETIRED ドメイン内にない。

## EMC NetWorker

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- クライアントリソースはアクティブである。
- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。

- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。
- クライアントは、過去 7 日以内にバックアップされた VM ゲストである。これには、廃止されたクライアントも含まれます。

## 汎用バックアップ

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- 汎用バックアップの場合、ジョブのみがキャプチャされる。

## HP Data Protector

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- バックアップ仕様がアクティブである。
- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。

## IBM Spectrum Protect (TSM)

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、ノードのクライアントはカウントされます。

- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。
- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- すべての一意の TSM クライアントの対応するノードのいずれかが、過去 45 日以内に TSM サーバーまたはインスタンスと通信した場合にカウントされる (TSM では NODES.LASTACC\_TIME)。

## NAKIVO Backup & Replication

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生したデータストア、リソースプール、仮想マシンなどの一意のオブジェクトがカウントされます。
- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生した NAS、ディレクトリ、ファイルなどのオブジェクトの一意のクライアントがカウントされます。

## Oracle RMAN (Recovery Manager)

Oracle RMAN リカバリカタログの一覧に示される一意のデータベースに対し、過去 90 日以内に Oracle RMAN バックアップジョブが試行された場合にカウントされます。

## Rubrik Cloud Data Management

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生したデータストア、リソースプール、仮想マシン、ファイルなどの一意のオブジェクトがカウントされます。
- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生した NAS、ディレクトリ、ファイルなどのオブジェクトの一意のクライアントがカウントされます。

## Veeam Backup & Replication

- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生したデータストア、リソースプール、仮想マシン、ファイルなどの一意のオブジェクトがカウントされます。
- 過去 7 日間にバックアップジョブが発生した NAS、ディレクトリ、ファイルなどのオブジェクトの一意のクライアントがカウントされます。

## Veritas Backup Exec

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- データは過去 7 日以内に収集された。
- クライアントは過去 7 日以内にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。

## Veritas NetBackup

次のいずれかの箇条書き項目に該当する場合、クライアントはカウントされます。

- クライアントはアクティブなバックアップポリシーの一部であり、ポリシーは NetBackup カタログ内に存在する (NetBackup で削除済みである場合、ポータルでそれらはカウントに含められない)。
- クライアントは過去 7 日間にバックアップされた (またはバックアップが試行された)。これには、廃止されたクライアントも含まれます。
- クライアントはメディアサーバーまたはマスターサーバーである。

## Virtualization Manager

VM サーバーの台数がカウントされます。

# Complete Suite

このライセンススイートは、Storage Suite と Protection Suite の製品に加え、File Analytics のコンポーネントで構成されています。各ライセンスの内容については、「Storage Suite」と「Protection Suite」に関するセクションを参照してください。

Storage Suite と Protection Suite の製品のライセンス消費基準は前述しています。Complete Suite は、ライセンス消費の測定に RAW テラバイトを使用します。File Analytics に含まれる製品の消費基準については、以降のセクションで説明します。

## File Analytics

すべての共有とボリュームの合計使用容量がカウントされます。NetBackup File Analytics の場合、この数には NetBackup によってバックアップされた共有とボリュームが含まれません。

---

メモ: 一度 File Analytics データが収集されると、ライセンス数からは除外できません。

---

## Foundation

Foundation ライセンスでは、Veritas NetBackup と Veritas Backup Exec のみをサポートする限られた機能セットのみが有効になります。このライセンスは共有サービスエディションであり、独自の Oracle ライセンスが必要です。Foundation ライセンスは、ライセンス使用状況のメーターとして FETB (フロントエンドテラバイト) を使用します。このライセンスは、Veritas NetBackup ポリシーと Veritas Backup Exec ポリシーに関連する限定的なレポートとアラートをサポートします。

## ライセンスの管理

データは、バックアップサーバーやストレージレイなどの個々のエンタープライズオブジェクトから直接収集されます。または、Hitachi Device Manager や vCenter などの集中型システムから収集されます。オブジェクトからのデータの収集をやめる必要がある場合があります。オブジェクトを削除しても、次回データ収集がデータを取得するときにオブジェクトは再びデータベースに表示されるため、単純には削除できません。ほとんどの場合、オブジェクトは除外してから削除する必要があります。ただし、いくつかの例外があります。次のセクションで提供されるガイダンスを使用して、ライセンス数からオブジェクトを除外する方法を決定します。

### 集中型システムから収集されたオブジェクトの管理

Hitachi Device Manager や vCenter などの集中型システムから収集する場合、NetBackup IT Analytics は利用可能なデバイスとリソースに関する情報を提供するため

に、そのシステムに依存します。集中型システムを介して収集されたオブジェクトの場合、収集されたオブジェクトを削除するには次の 2 つの方法があります。

- 推奨される方法: ポータルのデータコレクタポリシーに移動し、[除外 (Exclude)] フィールドを使用してオブジェクトを収集から除外します。たとえば、Hitachi Data Systems の場合、データコレクタポリシーでアレイを除外します。同様に、VMware の場合、データコレクタポリシーで ESX Server を除外します。データコレクタポリシーを通じてオブジェクトを除外すると、NetBackup IT Analytics によってこれらのオブジェクトはレポートデータベースから自動的に削除されます。
- または、集中型管理システムに移動してオブジェクトを廃止することもできます。この場合、オブジェクトは NetBackup IT Analytics データベースからも削除する必要があります。
  - p.33 の「ライセンス数からのオブジェクトの削除」を参照してください。
  - p.35 の「インベントリスト表示を使用したオブジェクトの削除」を参照してください。

## 直接精査されたエンタープライズオブジェクトの管理

多くのエンタープライズオブジェクトは、メタデータを収集するために直接精査されます。直接精査されるオブジェクトの場合は、次の手順に従ってそれらをライセンス数から除外します。

- 収集から除外: オブジェクトがデータ収集中にキャプチャされた場合、将来の収集でオブジェクトが再キャプチャされないように、オブジェクトを収集から除外する必要があります。
  - p.30 の「将来のデータ収集からのオブジェクトの除外」を参照してください。Backup Manager の場合、ベンダーの指示に従って、バックアップソフトウェアに直接移動して、バックアップポリシーからクライアントを削除できます。この場合、データベースからオブジェクトを削除する必要はありません。
- ライセンス数から除外: 直接精査されたオブジェクトをライセンス数のカウントから除外するには、ポータルのオブジェクトメンテナンスツールを使用してオブジェクトを削除する必要があります。
  - p.33 の「ライセンス数からのオブジェクトの削除」を参照してください。
  - p.35 の「インベントリスト表示を使用したオブジェクトの削除」を参照してください。

## 履歴データの処理方法

Backup Manager の動作は他の製品と異なります。次のセクションを参照して、ライセンスに対してバックアップクライアントがカウントされる条件を判断してください。通常、クライアントはバックアップポリシーの一部であるか、過去 7 日間にバックアップされているはずですが。

- p.18 の「ライセンススイートの消費基準」を参照してください。

**Backup Manager** はオブジェクトメタデータだけでなく、トランザクションベースのデータを含めます。オブジェクトがデータ収集から除外されると、これらの時間依存トランザクションは、履歴レポートのために保持されます。

**Capacity Manager** や **Virtualization Manager** などのその他すべてのライセンスが付与されたモジュールは、オブジェクトがレポートデータベースから完全に削除された場合は、履歴データを保持しません。

p.33 の「[ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

p.25 の「[履歴データの処理方法](#)」を参照してください。

## ライセンス数を管理するプロセス

次の戦略を使用して、ライセンスの利用方法を判断し、現在のライセンス構成を処理します。

- p.26 の「[カウント対象と除外対象のオブジェクトの特定](#)」を参照してください。
- p.29 の「[現在のライセンスの表示](#)」を参照してください。
- p.29 の「[クライアントの削除](#)」を参照してください。
- p.30 の「[ライセンス構成の拡張](#)」を参照してください。
- p.30 の「[将来のデータ収集からのオブジェクトの除外](#)」を参照してください。
- p.33 の「[ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

## カウント対象と除外対象のオブジェクトの特定

- ライセンス目的でカウントされたオブジェクトを一覧表示するには、次のユーティリティを実行します。

Windows の場合:

```
¥opt¥oracle¥database¥tools¥debug¥get_license_info.sql
```

Linux の場合:

```
/opt/aptare/database/tools/debug/get_license_info.sql
```

- ライセンス制限を超えたためにレポートに含まれないクライアントを一覧表示するには、次の SQL クエリーを実行します。

```
select * from apt_rejected_object where is_obsolete !='Y';
```

- ライセンス制限を超えたためにレポートに含まれないオブジェクトを除外するには、次のセクションを参照してください。  
p.30 の「[将来のデータ収集からのオブジェクトの除外](#)」を参照してください。

## 複数のライセンスのスタック

ポータル UI またはコマンドラインから、複数のライセンスをスタックできます。

ポータル UI からライセンスを追加するには、このマニュアルの「ライセンスのインストール」セクションで説明されている手順に従います。p.15 の「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

コマンドラインからライセンスを追加するには、該当する次の OS 固有のコマンドを使用してインストールします。

- Linux の場合:

```
/opt/aptare/utils/installlicenseUI.sh <path of the license file>
```

- Windows の場合:

```
C:%opt%aptare%utils%installlicenseUI.bat <path of the license file>
```

---

**メモ:** 無期限のライセンスをインストールすると、インストールされている評価版のライセンスは除去されます。

---

## 高度な資格のライセンスの追加

ポータル UI またはコマンドラインから、高度な資格のライセンスを追加できます。

ポータル UI からライセンスを追加するには、このマニュアルの「ライセンスのインストール」セクションで説明されている手順に従います。p.15 の「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。

コマンドラインからライセンスを追加するには、該当する次の OS 固有のコマンドを使用してインストールします。

- Linux の場合:

```
/opt/aptare/utils/installlicenseUI.sh <path of the license file>
```

- Windows の場合:

```
C:\opt\aptare\utils\installlicenseUI.bat <path of the  
license file>
```

---

**メモ:** 無期限のライセンスをインストールすると、インストールされている評価版のライセンスは除去されます。

---

## ライセンスエディションの変更

NetBackup IT Analytics 11.0 では、現在インストールされているエディションとは異なるエディションの新しいライセンスの追加はサポートされていません。エディションが異なるライセンスをインストールするには、既存の NetBackup IT Analytics 11.0 ライセンスを除去し、新しいライセンスをインストールする必要があります。

現在のライセンスを除去するには、OS に基づいて次のコマンドを実行します。

- Linux の場合は、root ユーザーとして次のスクリプトを実行します。  
`/opt/aptare/utils/removeLicenseFiles.sh`
- Windows の場合は、管理者として次のスクリプトを実行します。  
`C:\opt\aptare\utils\removeLicenseFiles.bat`

## ライセンススイートを積み上げた場合のポータル動作

### Foundation ライセンスに Protection Suite または Complete Suite を追加した場合

有効な Foundation ライセンスに、Protection Suite または Complete Suite のライセンスを追加してインストールすると、Foundation ライセンスは削除されます。追加のポリシーまたは機能を構成できるようになります。Foundation ライセンスで構成されたポリシーからのデータ収集は変更されません。これらのポリシーは、Protection Suite または Complete Suite のライセンスのサブセットになるためです。

### Protection Suite ライセンスに Foundation を追加した場合

有効な既存の Protection Suite のライセンスに Foundation ライセンスを追加してインストールすると、Protection Suite のライセンスは削除されます。Foundation ライセンスでは利用できないポリシーからのデータ収集は継続されますが、レポートは抑制されます。ライセンスを切り替える前に、Foundation ライセンスでサポートされていないポリシーを削除するか、無効にする必要があります。また、Tomcat ポータルと Tomcat エージェントユーザーサービスを再起動して、ライセンスの変更を有効にする必要があります。

## Complete Suite ライセンスに Foundation を追加した場合

有効な既存の Complete Suite のライセンスに Foundation ライセンスを追加してインストールすると、Complete Suite のライセンスは削除されます。Foundation ライセンスでは利用できない、保護タイプのポリシーからのデータ収集はライセンスの有効期限まで継続されますが、レポートは抑制されます。ストレージタイプのポリシーからのデータ収集は、RAWTB が枯渇すると停止します。ライセンスタイプを切り替える前に、Foundation ライセンスでサポートされていないポリシーを削除するか、無効にする必要があります。また、Tomcat ポータルと Tomcat エージェントサービスを再起動して、ライセンスの種類を有効にする必要があります。

## Tomcat ポータルと Tomcat エージェントの起動

Linux の場合:

- `/opt/aptare/bin/tomcat-agent restart`
- `/opt/aptare/bin/tomcat-portal restart`

Windows の場合は、Windows サービスコンソールから Tomcat エージェントと Tomcat ポータルを再起動します。

# 現在のライセンスの表示

p.38 の「[現在のライセンス構成の確認](#)」を参照してください。

# クライアントの削除

Backup Manager の場合、クライアントをパージすると、拒否されたクライアントを追跡するテーブルが自動的にライセンススロットを解放し、他のクライアントを追加できるようになります。ホストグループ管理機能を使用して、古いクライアントを削除します。

クライアントがパージされたときに解放されるライセンスを計算するメーターとして、フロントエンドテラバイト (FETB) が使用されます。次の変換係数を使用して、クライアントの数を FETB に変換します。

1 FETB = 2.5 クライアント

---

**メモ:** ネイティブバックアップ製品で廃止されたクライアントは、すべてのアクティブなバックアップポリシーからの削除により、直近のバックアップから 48 時間後まで NetBackup IT Analytics ライセンスを消費します。

---

## ライセンス構成の拡張

収集するすべてのオブジェクトに対するレポート作成を有効にするには、追加のライセンスを購入します。Veritasの営業担当までお問い合わせください。

## 将来のデータ収集からのオブジェクトの除外

除外するオブジェクトの種類に応じて、次の 2 つの方法を使用してデータ収集からオブジェクトを除外できます。

- p.30 の「[オブジェクトを除外するためのデータコレクタポリシーの構成](#)」を参照してください。
- p.32 の「[オブジェクト除外データベーステーブルへのオブジェクトの追加](#)」を参照してください。

## オブジェクトを除外するためのデータコレクタポリシーの構成

特定のデータコレクタポリシーを構成することで、データ収集からオブジェクトを除外するように設定できます。この方法は、除外するオブジェクトに対して使用できる場合に使用する必要があります。

- アレイの除外: EMC Symmetrix と Hitachi Data Systems
- ESX Server の除外: VMware
- スイッチの除外: Brocade

## アレイを除外するためのデータコレクタポリシーの構成例

1. ポータルで、[管理 (Admin)]、[データ収集 (Data Collection)]、[コレクタ管理 (Collector Administration)]の順に選択します。
2. コレクタと関連するポリシーを選択します。この例では、Hitachi Block Storage が表示されています。

**Hitachi Block Storage Data Collector Policy**

Collector Domain:  
qaprod80

Policy Domain:  
qaprod80

Hitachi Device Manager Server:\*

User ID:\* Password:\*

Repeat Password:\*

Exclude Arrays:

**Active Probes** **Schedules**

Array Details  Array Performance  HDT Collection

Every day at 02:01  
Every 15 minutes  
HTnM Install Location:

Notes:

Enter one or more array names to be excluded. Comma-separated names are supported. Example:  
USPV\_1@172.16.1.13, USPV\_2@172.16.1.14.

OK Cancel Help Privacy Policy

3. オブジェクトがすでにデータベースにある場合、ライセンス数のカウントから除外するには、オブジェクトもデータベースから削除する必要があります。

p.33 の「[ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

## オブジェクト除外データベーステーブルへのオブジェクトの追加

オブジェクト (クライアント、ESX ホスト、アレイなど) をデータ収集から除外するには、オブジェクトを `apt_exclude_object` テーブルに挿入する必要があります。オブジェクトがすでにデータベースにある場合、ライセンス数のカウントから除外するには、オブジェクトもデータベースから削除する必要があります。

p.33 の「[ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

p.35 の「[インベントリリスト表示を使用したオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

1. ターミナルをポータルサーバー (Linux) またはポータルサーバーのコマンドプロンプト (Windows) で開きます。

Linux の場合 `su-aptare`

2. 実行: `sqlplus <ID>/<password>`
3. 次の SQL ステートメントを使用して、除外オブジェクトテーブルを表示します。

```
SQL> desc apt_exclude_object;
Name Null? Type
-----
DOMAIN_IDNOT NULLNUMBER(6)
OBJECT_NAMENOT NULLVARCHAR2(64)
CREATION_DATENOT NULLDATE
APTARE_PRODUCT_TYPENOT NULLNUMBER(2)
```

---

**メモ:** `APTARE_PRODUCT_TYPE` は、これらの手順の後半に列挙される手順のコマンドライン実行で、以下の数値のいずれかに置き換えます。

---

- Backup Manager = 1
  - Capacity Manager = 2 (アレイオブジェクトに使用)
  - Virtualization Manager = 4
  - Replication Manager = 8
  - Fabric Manager = 16
  - File Analytics = 32
4. 実行: `select domain_name, domain_id from apt_domain;`  
これは、後続のスクリプト実行に必要なドメイン ID をキャプチャする目的で実行します。

通常、ドメイン ID は **100000** ですが、マルチテナントのマネージドサービス環境では、ドメイン ID はクライアントのドメインに固有です。

```
SQL> select domain_name, domain_id from apt_domain;
DOMAIN_NAME DOMAIN_ID
-----
CORP07 100000
```

5. 特定の値を代入して、以下を実行します。

```
SQL> insert into apt_exclude_object (domain_id, object_name,
aptare_product_type, creation_date) values (100000, 'Array 123', 2,
sysdate);
```

この手順では、このオブジェクトがオブジェクト除外データベーステーブルに追加(挿入)されます。**object\_name** は、ホスト名やアレイ名などの名前に置き換えます。

6. データ収集から除外する必要があるすべてのオブジェクトについて、手順 5 を繰り返します。
7. すべての挿入が完了したら、**commit;** を実行します。
8. クライアントがすでにデータベースにある場合は、クライアントをデータベースから削除して、ライセンス数にカウントされないようにする必要があります。

p.33 の「[ライセンス数からのオブジェクトの削除](#)」を参照してください。

## ライセンス数からのオブジェクトの削除

ライセンス数からオブジェクトを除外するには、オブジェクトとそのデータをシステムから完全に削除する必要があります。

オブジェクトは、インベントリとオブジェクトメンテナンスで管理されます。

次の表を使用して、オブジェクトの削除に使用する領域を決定します。

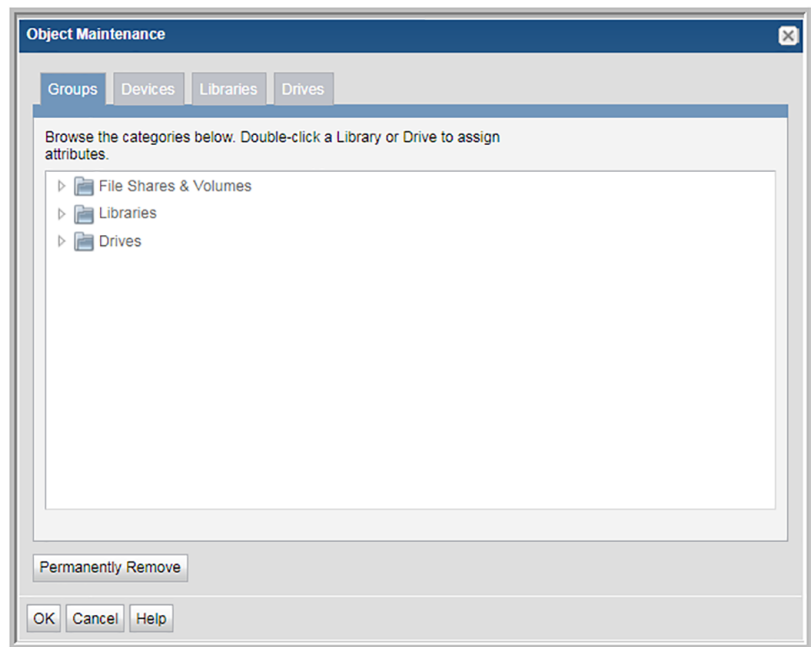
表 1-4

オブジェクトタイプ	管理のための製品領域
アレイ	インベントリ
バックアップサーバー	インベントリ
重複排除アプライアンス	インベントリ
ファイル共有とボリューム	インベントリ
ドライブ	オブジェクトメンテナンス

オブジェクトタイプ	管理のための製品領域
ホスト	インベントリ
ライブラリ	オブジェクトメンテナンス
スイッチ	インベントリ
VM サーバー	インベントリ

### オブジェクトメンテナンスを使用してオブジェクトを削除する方法

- 1 [管理者 (Admin)]、[詳細 (Advanced)]、[オブジェクトメンテナンス (Object Maintenance)]の順に選択します。



- 2 削除するオブジェクトを見つけます。
- 3 オブジェクトを選択して、[完全に削除 (Permanently Remove)]をクリックします。  
 ボタンが示すように、この操作によって、ライセンス数からオブジェクトが除外されるだけでなく、そのオブジェクトと、システムから収集されたデータは完全に削除されます。

## インベントリリスト表示を使用したオブジェクトの削除

オブジェクトを削除した場合 (権限を持っている場合)、そのオブジェクトはレポートデータベースから回復できなくなります。関連するすべての履歴データもデータベースから完全に削除され、すべてのレポートで使用できなくなります。ポップアップウィンドウにこの操作の警告が表示され、不注意による削除が防止されます。

ホストを削除すると、VM サーバーを除き、そのホストに関連するすべてが除去されます。関連する VM サーバーを除去するには、インベントリウィンドウを使用して明示的に削除します。そうすることで、サーバーがデータベース内で孤立するのを防ぎます。

ほとんどの場合、グループからホストを除去して、そのグループ内の他のマシンとの関係からホストのリンクを解除する必要があります。

### インベントリを使用してオブジェクトを削除する方法

---

**メモ:** VM ゲスト、個々の LUN、S3 バケット、EC2 インスタンス、Azure ストレージアカウント、Azure 仮想マシンとデータストアは削除できません。

---

- 1 [インベントリ (Inventory)]を選択します。
- 2 オブジェクトの種類カテゴリを選択し、展開して表示します。
- 3 インベントリリスト表示に切り替えます。
- 4 個々のオブジェクトを選択するか、複数選択できます。
- 5 [削除 (Delete)]をクリックします。すべての関連するホストの履歴データもデータベースから削除され、すべてのレポートで利用できなくなることに注意してください。確認ダイアログが表示されます。

# コマンドラインからのライセンス管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [概要](#)
- [Microsoft Windows ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール](#)
- [Linux ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール](#)
- [現在のライセンス構成の確認](#)
- [ポータルライセンスの削除](#)

## 概要

ベストプラクティスとして、ポータルから直接ライセンスをインストールします。または、コマンドラインからインストールできます。

p.37 の「[Microsoft Windows ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール](#)」を参照してください。

p.38 の「[Linux ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール](#)」を参照してください。

# Microsoft Windows ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール

受け取ったライセンスファイルをポータルサーバーに保存し、次のすべての手順を実行します。

1. Oracle プロセスが実行されていることを確認します。

```
C:¥opt¥aptare¥utils¥startoracle.bat
```

2. Start、Run、cmd の順に使用して、DOS コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

3. ライセンスインストーラユーティリティを実行します。

```
C:¥opt¥aptare¥utils¥installLicense.bat
```

4. ライセンスファイルの名前の入力を求められたら、サーバーに保存したライセンスキーファイルへの完全なパスを入力します。ダイアログの例を以下に示します。

```
Enter the name of the license file you wish to install [*.slf] :
```

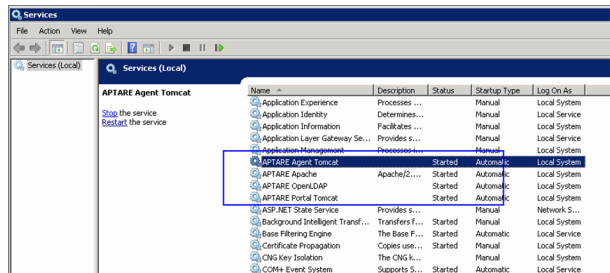
```
C:¥Users¥Administrator¥Documents¥Slic¥
```

```
A3351334429_QTY200_APTARE_ITA_10_6_COMPLETE_STANDARD_DR_LIC_NNL_4756411672.slf
```

```
Verifying license...
```

```
License installed
```

サービスパネルを表示して、サービスが実行されていることを確認します。



5. ライセンスのインストールを検証します。

p.39 の「[ライセンス検証ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

# Linux ポータルプラットフォームでのライセンスのインストール

受け取ったライセンスファイルをポータルサーバーに保存し、次のすべての手順を実行します。

1. **Oracle** プロセスが実行されていることの確認: **root** として **NetBackup IT Analytics** データベースサーバーにログインします (通常、データベースサーバーとポータルサーバーは同じ物理サーバー)。

```
/opt/aptare/bin/oracle start
```

2. インストールスクリプトの実行: **NetBackup IT Analytics** ポータルサーバーに **root** としてログインします。

```
/opt/aptare/utils/installlicenseUI.sh
```

3. ライセンスファイルの名前の入力を求められたら、サーバーに保存したライセンスキーファイルへの完全なパスを入力します。

例:

```
Enter the name of the license file  
you wish to install [*.slf]: /opt/aptare/license.slf  
Verifying license...  
License installed.
```

4. ライセンスのインストールを検証します。

p.39 の「[ライセンス検証ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

## 現在のライセンス構成の確認

現在のライセンス構成を検証する方法はいくつかあります。

- ポータルで、ライセンスの概略レポートを実行するか、ヘルプのバージョン情報を参照します。  
p.17 の「[ライセンスの概略レポートの実行](#)」を参照してください。  
p.17 の「[ヘルプのバージョン情報](#)」を参照してください。
- p.39 の「[レポート設定ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
- p.39 の「[ライセンス検証ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

## レポート設定ユーティリティの実行

通常、このレポートは、ライセンスキーファイルを要求するときに実行し、ライセンスの要求に実際のホスト名とホストロック文字列を含めることができます。ポータルソフトウェアがインストール済みの場合は、次のコマンドを実行し、電子メールに出力を含めます。

- Windows の場合:

```
C:\%opt%\aptare\utils\reportconfig.bat
```

- Linux の場合:

```
/opt/aptare/utils/reportConfig.sh
```

### 出力例:

```
Veritas Get Host Lock utility v1.0.0.0  
Copyright (c) 2021 Veritas Technologies LLC.  
All rights reserved.
```

```
FQDN: sclcplnx18vm17.rsv.ven.veritas.com  
Host Lock String: [sha512]8593c605127b368a9cde7158a704  
adcce15db165539adbdc7f8dafcf76bdf75cc3af0d3069c925a571  
d498d2d7b9cd2908441835891885ac3266768ca6d28efc
```

```
Veritas Get Host Lock utility v1.0.0.0  
Copyright (c) 2021 Veritas Technologies LLC.  
All rights reserved.
```

```
FQDN: myhost.mycompany.com  
Host Lock String:  
[sha512]8593xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxc3266768ca6d28efc
```

## ライセンス検証ユーティリティの実行

通常、このユーティリティは、ライセンスキーをインストールした後に実行します。

このユーティリティはデータベースに接続し、ライセンスが付与されたコンポーネントの数と名前を、インストールされているライセンスキーに含まれている値と比較します。評価用ライセンスの場合、レポートには、ライセンスキーの有効期限が切れる日時、つまり、ソフトウェアが機能しなくなる日時が表示されます。

スーパーユーザー権限を持つユーザーとしてログインし、次のユーティリティを使用して、ライセンスが付与され、現在環境で有効化されているコンポーネントを確認します。

- Windows の場合:

```
C:%opt%aptare%utils%verifyLicense.bat
```

Linux の場合:

```
/opt/aptare/utils/verifyLicense.sh
```

このレポートの最も重要な部分は、「**VERIFYING LICENSE AGAINST CONFIGURATION**」というタイトルの最後の部分です。この部分が空白の場合、ライセンス違反はなく、ライセンスは正しくインストールされています。また、製品内のライセンスが付与されたコンポーネントの数は、インストールされたライセンスキーと一致しています。

このレポートの「**LICENSE DETAILS**」部分には、ご使用の環境用に購入されたライセンスに関連付けられている特定の機能が表示されます。

### 出力例:

```
===== LICENSE DETAILS =====
```

```
Main Portal License:
```

```
Path to license: c:%opt%aptare%portalconf%licenses  
License Issued on Jan 12, 2021 12:00:00AM IST  
Product Edition: STANDARD
```

```
Licensed Modules:
```

```
    Backup Manager is licensed  
    Capacity Manager is licensed
```

```
Features:
```

```
Max SAN capacity (TB): 300  
Backup Manager Capacity: 300
```

```
Max SAN Ports: Unlimited  
Max File Analytics Utilization (TB): Unlimited  
Number of allowed vm servers: Unlimited
```

```
Activation State: The license is active.
```

```
===== REPORT COMPLETE =====
```

## ポータルライセンスの削除

ポータルライセンスを削除する、またはライセンスのインストールの問題に対処するには、次の手順を使用して、ポータルライセンスを削除してから再インストールします。

## Windows の場合:

1. ポータルで、次のコマンドを実行してデータレシーバをシャットダウンします。

```
C:¥opt¥aptare¥utils¥stopagent.bat
```

2. 次を実行してポータルをシャットダウンします。

```
C:¥opt¥aptare¥utils¥stopportal.bat
```

3. 次のスクリプトを実行してライセンスファイルを削除します。

```
C:¥opt¥aptare¥utils¥removelicensefiles.bat
```

## Linux の場合:

1. ポータルで、データレシーバをシャットダウンします。

```
/opt/aptare/bin/tomcat-agent stop
```

2. ポータルをシャットダウンします。

```
/opt/aptare/bin/tomcat-portal stop
```

3. 次のスクリプトを実行してライセンスファイルを削除します。

```
/opt/aptare/utils/removeLicenseFiles.sh
```

# トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- ライセンスのインストールが「ライセンスは別のホストに対してすでに発行済みです (License is already issued for another host)」エラーで失敗する

## ライセンスのインストールが「ライセンスは別のホストに対してすでに発行済みです (License is already issued for another host)」エラーで失敗する

NetBackup IT Analytics ライセンスのインストールが以下のエラーで失敗する場合があります。

```
License is already issued for another host.
```

このエラーは主に Linux ベースのシステムで発生します。

ライセンスのインストールが「ライセンスは別のホストに対してすでに発行済みです (License is already issued for another host)」エラーで失敗する

このエラーを修正するには:

- 1 ユーティリティによって表示された正しいホスト文字列を **VEMS** ポータルで入力していることを確認します。次に例を示します。

```
/opt/aptare/utlils/reportConfig.sh
```

または

```
/opt/aptare/utlils/VxLicGetHostLock.sh
```

**VEMS** で入力するホスト文字列には、[sha512] も含める必要があります。

- 2 `reportConfig.sh` と `VxLicGetHostLock.sh` は `hostname --fqdn` コマンドを使用してシステムのホスト名を取得し、ホスト文字列を作成します。

`hostname --fqdn` が短縮名ではなく完全修飾ホスト名を返すことを確認してください。たとえば、コマンド出力には少なくとも 1 つのドット (.) 文字が含まれている必要があります。

- 3 ホストで **DNS** が構成されていない場合、システムの `/etc/hosts` ファイルで、最初のエントリ (<システムの IP> <システムの FQHN>) として完全修飾ホスト名が記述され、システムの IP がホスト解決されていることを確認します。

たとえば、ホスト名が `abc` でドメイン名が `xyz.com` のホストの場合、次のように設定します。

```
1.2.3.4 abc.xyz.com
```